

現代日本人の歯並びが最悪なワケ

～顎顔面構造の進化的背景と気候環境の影響～

今年度第1回目の歯科学術研究会は、会員から要望のあった国立科学博物館人類研究部名誉研究員の馬場悠男氏より、現代日本人の歯並びの現状と咀嚼器の発達と退縮についてご講演頂きます。馬場氏は人類形態進化学を専門としてジャワ原人の発掘調査等に取り組み、国立科学博物館の人類進化コーナーの監修に多く関与されました。今回、歯並びの悪化や歯列が狭いことで起こる影響や、健全な顎を復活するための方法などについてお話し頂きます。是非、ご参加ください。なお、月刊保団連2022年12月号の特集で研究の一端を垣間見ることができますので、ご参照下さい。

歯科学術委員長 五十嵐 公英

【日時】 7月21日（金） 19:00～20:50

【会場】 宮城県保険医協会研修ルーム・web 併用

（仙台市青葉区本町 2-1-29 仙台北町ホンマビル 4F）

※お車でお越しになられる方は会場周辺の有料駐車場をご利用ください。

※市営地下鉄広瀬通駅から徒歩1分

※ご注意 セキュリティの関係で表入口（広瀬通側）は閉扉されていますので、裏の通用口からお入り下さい。裏の通用口が施錠されている場合は、事務局（Tel. 022-265-1667）までお電話下さい。



（ヒサオ）

【講師】 **馬場悠男 氏**

（国立科学博物館人類研究部名誉研究員）

【参加費】 無料

【参加対象】 保険医協会会員及び従業員

講師御略歴、申し込み方法は裏面をご覧ください。

【申込・問合せ】

宮城県保険医協会 事務局

TEL : 022-265-1667

FAX : 022-265-0576

E-mail : miyagi-hok@doc-net.or.jp

HP : <http://miyagi-hok.org>

講師御略歴

1945年、東京生まれ神奈川県育ち。国立科学博物館名誉研究員。座間市教育委員。日本学術会議連携会員。元日本人類学会会長。元日本顔学会副会長。東京大学生物学科卒。獨協医科大学解剖学助教授を経て、1988年から国立科学博物館主任研究官。96年から同人類研究部長および東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授を兼任。2009年定年退職。専門はジャワ原人化石の調査、人類の進化と日本人の形成過程。国立科学博物館（東京上野）の特別展に数多く携わるとともに、NHKスペシャル「人類誕生」、NHK「日本人はるかな旅」など多くの科学番組を監修出演している。著編訳書は、『顔の進化』、『私たちはどこから来たのか』、『人類の進化大図鑑』など。趣味は、調査を兼ねた旅行、よろず工作、刃物研ぎ。

講師コメント

縄文人は歯が小さく、顎は頑丈で鉗子状咬合だった。現代日本人は渡来弥生人の遺伝的影響により歯が大きいが、アメリカ軟食文化の影響で歯槽骨が退縮し、世界中で最も歯並びの悪い集団になった。歯列が狭く、舌の動きが制限され、健全な咀嚼・嚥下ができず、睡眠時無呼吸を起こし、滑舌の悪い若者が増加している。縄文人のような健全な顎を復活するためには、幼児のときから大きく硬い食物を食いちぎってよく噛むことを良しとする食生活習慣をつけることが肝心である。学校給食を正課にする必要があるだろう。さらに、私自身の調査による、麦作農耕古代エジプト人の顎と咬耗が採集狩猟縄文人と似ているという事実が、新たな展望を開く。

歯科学術研究会（7/21・金）参加申込方法

※7月18日（火）までに申し込み下さい。

・本企画をweb参加する場合にはzoomウェビナーの事前登録が必要です。まずは、
当会ホームページ（<http://miyagi-hok.org>）の「催し案内」からお手続きください。
右記QRコードからもお申込み可能です。



お申込み頂いた方には、別途ウェビナー事前登録の案内をお送りします。

記入したメールアドレスにメールが届かない場合は、ご連絡ください。会場参加の場合は、
電話もしくはE-mail : miyagi-hok@doc-net.or.jpにて「氏名・所属先・参加人数」をお知らせください。